

豊中市

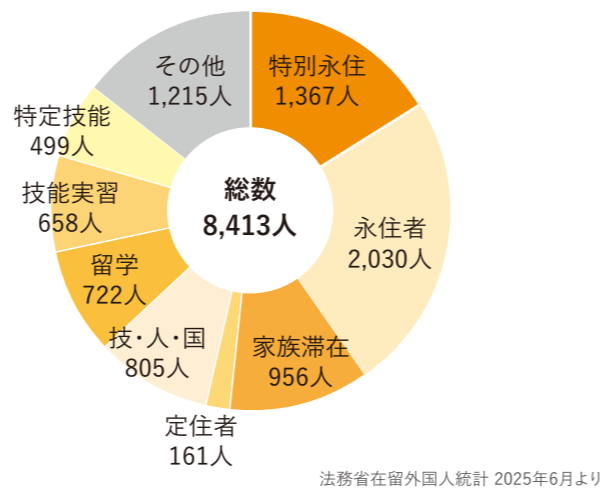
Toyonaka City

総人口	在留外国人数	比率
398,107人	8,413人	2.11%

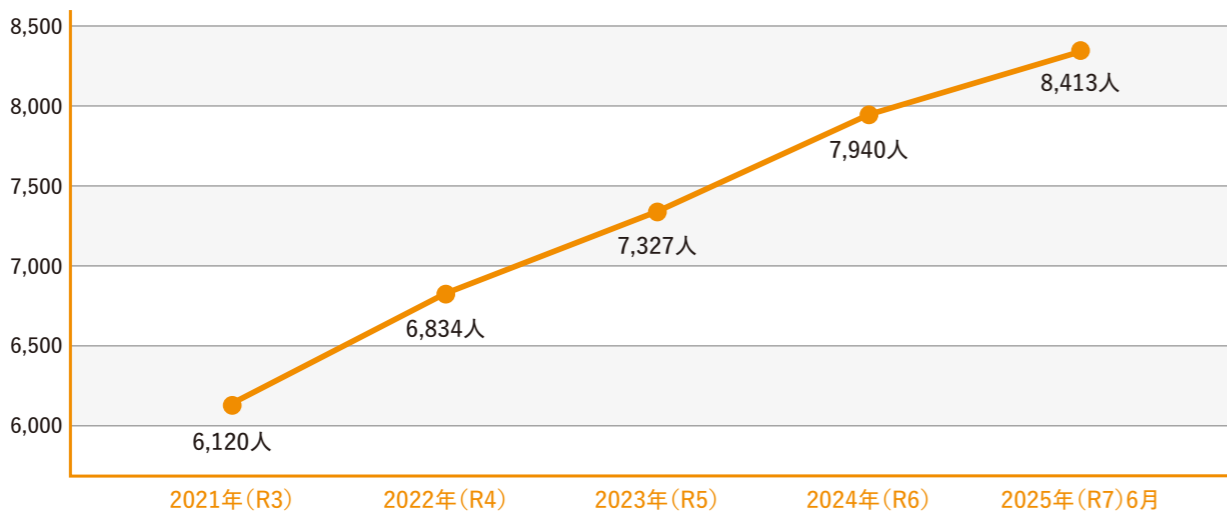
豊中市は大阪府北部に位置する住宅・文化・教育都市です。都心へのアクセスが良好で、大阪国際空港(伊丹空港)を擁する国内外への玄関口でもあります。市域は面積36.60平方キロメートル(東西約6km、南北約10.3km)に、人口約39万9千人、約18万世帯(2023年7月推計)が暮らしています。また「安全都市」「非核平和都市」「人権擁護都市」などの都市宣言を行い、人権を尊重した安全で平和なまちづくりを推進。ブランドメッセージ「と、ともに、とよなか」を掲げ、多様な価値が共存するまちを目指しています。

豊中市の特徴

「永住者」や「特別永住者」といった、地域に長く根付く定住層が多くを占めています。また、専門的な業務に就く就労層「技・人・国」(技術・人文知識・国際業務)などや、その家族として移り住む「家族滞在」の層も増加傾向にあり、生活基盤を地域に置くファミリー層が多い傾向があります。



外国人推移データ



01 福祉

重層的支援体制整備事業

福祉部 地域共生課

福祉部 地域共生課

豊中市における重層的支援体制整備事業

複雑化・複合化した課題に支援機関が対応するためには、各機関の連携が欠かせません。課題を抱える人が複数いる世帯では、各属性に応じてそれぞれ支援するのではなく世帯として支援方針を定めます。各機関の中心となり、支援の方向性や進捗を管理するコーディネーター役を配置し適切に支援を進めます。また、各機関が担う役割の決定、そこに至る調整を行うことで、連携を促進するとともに現場の負担も軽減します。特に外国人支援においては、文化的背景が異なることでの外国人特有の課題も多いため、国際交流センター等との連携で市内の外国人コミュニティとの接点を作ることが大切になります。

やさしい日本語と多言語対応による情報提供の工夫

職員の「やさしい日本語」研修に取り組んだことから、庁内文書や学校配布文書の「やさしい日本語」化を進め、低所得者向け給付金の手続きでは、統計データに基づき優先順位を決めて翻訳した多言語表記の封筒を作成するなど、確実に外国人住民に情報が届くよう工夫しています。相談支援では、地域包括支援センターや国際交流協会と連携し、個々のケースに応じた対応を行っています。

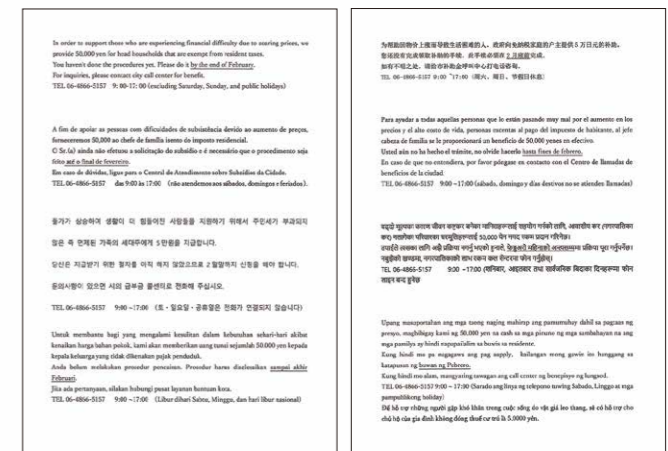
子育て中の親支援としての必要性

また、豊中市の人口の外国人割合は現時点では多いとは言えませんが、大阪大学近隣など外国人教員・留学生およびその家族が多い地域では、日本語習得が早い留学生や子どもに比べ、配偶者が日本語を話さず子育て中に孤立する課題も見られるため、地域での関わりが重要視されています。

本市では、市民・社会福祉協議会・各種団体・事業者などによる市民力・地域力があつたからこそ地域活動が展開されてきました。重層的支援体制整備事業の「属性を問わない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施し、地域共生社会の実現に向けた取組みを進めるためには、市民力・地域力とこれらの基盤を支える仕組みづくりは必要不可欠です。また、包括的な支援体制を整備・強化し、既存の事業では対応できていない狭間・個別のニーズに対応するためにも、地域の社会資源を活用して社会とのつながりづくりに向けた支援なども行います。



多言語表記の封筒



多言語表記の説明文書

02 多文化

多文化共生社会の推進

市民協働部 人権政策課、
公益財団法人 とよなか国際交流協会(ATMOS)(とよなか国際交流センター指定管理者)

市民協働部 人権政策課

外国人市民の参画と「多文化共生推進連絡会議」の開催

「多文化共生推進連絡会議」を年1回開催し、全庁的な推進体制をとっています。行政手続きにおける通訳支援は「特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか(TIFA)」に委託し、通訳が常駐する窓口があり、多言語対応が可能です。また、「外国人市民会議」では、

公募等で選ばれた外国人市民がテーマに沿って意見交換を行っています。第10期では「子育て」をテーマに情報不足等の課題が挙げられたことから、現在の第11期では「情報」をテーマに、やさしい日本語による啓発動画を制作しました。

多文化共生推進連絡会議



外国人市民会議



多文化共生指針(改訂)



特定非営利活動法人
国際交流の会とよなか



公益財団法人 とよなか国際交流協会(ATOMS) (とよなか国際交流センター指定管理者)

アウトリーチと地域交流による包括的支援

センター来館型の支援にとどまらず、庄内・千里地域へのアウトリーチ活動や庄内コラボセンター「ショコラ」1階カフェスペースでの交流カフェを通じて、地域住民と外国人住民がつながる機会を創出しています。生活相談では、必要に応じて市役所や関係機関に丁寧につないでいます。また現場で感じた制度上の課題を行政へフィードバックすることも意識して行っています。図書館と協働し公共施設を活用して地域住民との交流を促進しています。日本語学習支援では、千里や庄内など複数の地域で日本語教室を運営し、子育て世帯や高齢者など、多様な背景を持つ外国人市民の学びを支えています。



「世界とつながる交流カフェ〜ベトナム編〜」の展示コーナーの様子

公益財団法人
とよなか国際交流協会(ATOMS)



03 まちづくり

市民自治によるまちづくりの視点から

NPO法人 とよなかESDネットワーク(豊中市市民公益活動支援センター[トヨカツ]業務委託者)

NPO法人 とよなかESDネットワーク (豊中市立市民公益活動支援センター[トヨカツ]業務委託事業者)

支援が次の支援を生む取組み

地域課題と市民公益活動をつなぐ拠点として、豊中市立市民公益活動支援センターの運営を受託しています。不定期で訪れる外国人住民へのボランティア活動相談に乗ることも多く、市民公益活動団体と外国人ボランティアのつなぎ役として機能しています。豊中市に登録している市民公益活動団体の中には、外国ルーツの子どもや家庭への支援に取り組んでいる団体もあります。かつて学習支援を受けていた外国ルーツの子どもが成長し、子ども食堂や

学習支援のボランティアとして活動する「支援される側」から「支える側」へ移行する事例がありました。また、センターがある複合施設は、隣接する学校と協定を結んでおり、子どもたちが「寄り道」できる場所としても機能しています。複合施設内では、登録しているNPOが主体の学習支援教室も開催されており、外国人ボランティアが活躍していた時期もありました。

外国人保護者の地域活動への参加

PTA・地区委員会関係者

地域参加の面では、PTAや「親父の会」、地区委員会などに外国人保護者が参加している事例があります。特にアウトドア活動など、

興味や得意分野を軸とした活動では、言葉の壁を越えてスムーズに参加が進んでいます。

NPO法人とよなかESDネットワーク



豊中市市民公益活動支援センター
(トヨカツ)



庄内コラボセンターショコラ



豊中市市民公益活動支援センター(トヨカツ)